



SDGs達成に向けた取り組み

KAOKAは20年以上も前から、有機農法と森林農法をベースにした農園管理や、フェアトレードの枠を超えた生産者との絆を通して、持続可能なカカオ産業を実現してきました。

KAOKAは、SDGsの17のゴールのうち、9つの達成に貢献しています。

1 貧困をなくそう



KAOKAは生産者が栽培したオーガニック・フェアトレードカカオ豆を市場価格の2〜4割高く購入しています。加えて、KAOKAチョコレートの販売数量に基づき、「プレミアム・ボーナス」を支給しています。

2020年から数年間、世界がコロナの脅威にさらされた時期においても、その世情に関係なく、パートナーカカオ生産者の全てのカカオ豆を100%買い取り、生産者の収入を確保しました。

2 飢餓をゼロに



エリートツリー（生産性、耐病性、アロマの質が優れているカカオの木のこと）を選定し、その優れた遺伝子をもとに、苗木の栽培や古い農園の若返りを行うことで生産性の改善を図り、優れたカカオの収量を増やしています。

*サントメ島では、農園を改修したパートナーカカオ生産者の収入が、現地の平均収入の3倍に達しました。

またカカオの木を保護し、かつ生産者の補助的な収入源となるバナナやパイナップル、ジャックフルーツやアボガドなどの果樹の保護や植樹をしています。



SDGs達成に向けた取り組み



サントメ島において、多忙な収穫時期に使用できるような宿泊施設を建設しました。新品のベッドや机等の家具が搬入され、着々とオープン準備が進められています。今後カカオ生産者の集いの場として利用されていくことでしょう。

この施設内には、KAOKAとCECAB（セカブ）がサポートして作られたチョコレート工場も併設されています。KAOKAは建設費用のほかに3名の製造員のフランス研修を企画し資金提供も行いました。現在、同製造員を中心に工場が稼働され、国内および地方市場でのチョコレート販売に向けて準備が進められています。



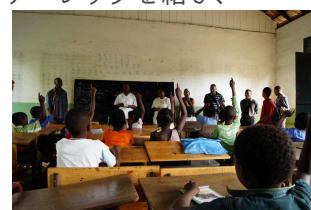
すべてのカカオ生産者が病気や妊娠をした際に、ヘルスケア支援を受けられるようにサポートしています。例えば、生産者が提示する処方箋と薬局の請求書に基づき医薬品や眼鏡の代金を負担をしています。

またカカオ生産者の家族に死が訪れたとき、尊厳をもって埋葬できるような棺の費用を弁済するなど予期せぬ出費の一部を負担しています。

2020年には、世界がコロナの脅威にさらされる中、コロナ対策としてカカオ生産者にマスクを配布するなど、カカオ生産者の心に寄り添うサポートを行いました。



2012年にASEPIC(サントメ教育文化交流推進協会)とパートナーシップを結び、KAOKAサントメ75%のタブレット（板チョコレート）の売上の一部を寄付しました。（1枚につき€0.05）これらの基金は校舎や学校設備の修繕などに使用され、子ども達の学習環境に改善をもたらしました。



KAOKAが取り組む4か国の内、ドミニカ共和国のみ児童労働が報告されています。（それ以外の3か国では児童労働がありません。）

ドミニカ共和国における児童労働の対象は、主にハイチから来る未成年労働者だそうです。KAOKAのパートナーであるCONACADO組合は、農園での児童労働根絶を強化する管理プログラムを、国際NGO「セーブ・ザ・チルドレン」と協力の上開発し、実行しています。児童労働は、Fair For Life監査の枠組みの中で毎年エコサートにより監査され、発覚した場合は即時に認証取消という厳しい処分を受けることとなります。

SDGs達成に向けた取り組み

12 つくる責任
つかう責任



生産者とともにフレッシュなカカオ豆を試食し、エリートツリー（生産性、耐病性、アロマの質が優れているカカオの木のこと）を選定してクローナルガーデンを創設します。そしてエリートツリーの優れた遺伝子をもとに苗木を栽培し植樹を行います。また、接ぎ木の技術を用いて生産性の下がった古いカカオの木を接ぎ木の技術を用いて再生することで、優れたカカオの収穫量を増やしています。KAOKAがもつノウハウを駆使しリノベーションを図り、そして有機農法と森林農法を用いて栽培を行い、持続可能な生産パターンを確立しています。

（写真）植樹された苗木



また、2018年に開園したKAOKA/サンエイト貿易のエクアドル試験農地「アンドレ・ドゥベール農園」では、ナショナル種のアロマと高い生産性を兼ね備えた新品種の育成、地域毎により適した品種の実証、シェードツリーの調査、そして新たなリノベーション方法の確立などが行われており、持続可能な生産パターンの更なる発展を目指しています。（写真）アンドレ・ドゥベール農園



13 気候変動に
具体的な対策を



2021年に、KAOKAが発起人となり、ペルー、コロンビア、エクアドルのカカオ栽培における、生態系の保全と再生、生物多様性の保護、そして持続可能な農法の推進のための官民パートナーシップを締結しました。（897万€の官民プロジェクト）

フランス地球環境基金（FFEM）の支援を受け、農業生態学の研究機関（アグロフォレストリーの専門機関や生物多様性・気候変動の専門機関）とともに取り組んでいます。



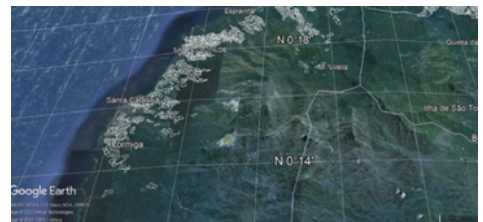
SDGs達成に向けた取り組み



1990年～2020年の間に世界の森林の約10%（EUの面積以上にあたる4億2000万haを指す）が消失し、さらに毎年1000万ヘクタールの森林が失われ続けています。（FAO推計より）森林伐採等は森林に蓄えられている二酸化炭素を排出するとともにその吸収源を減らすことを意味し、生態系への影響、土壌の劣化や浸水などを引き起こす要因となります。

KAOKAは森林保護を推進することが、気候変動との闘いと持続可能なカカオ栽培の実現において最も効果的な手段の一つであると考え、森林破壊ゼロ・カカオを目指して進んでいます。

-2023年、取り組みをする4つのすべての生産地において、カカオ生産者の農園をGPSで測りデジタル化しました。そのデータを森林地域の衛星画像に重ね合わせることで生産者の農園が拡大されていないか（森林伐採が行われていないか）を確認することが可能になりました。



-土壌の劣化はカカオ農園の生産性低下を招き、ひいてはカカオ生産者の収入に大きな影響を与え、結果として、化学物質の使用や肥沃な土地を求めた森林伐採を引き起こします。KAOKAでは、土壌pHの分析と修正、有効な微生物や堆肥の配布、窒素固定と土壌の回復を目的とした被覆作物の植え付けなどの実践的な解決策をカカオ生産者に提供することで、土地の肥沃度の改善と維持をしています。

-KAOKAが開始した官民プロジェクト（p3に記載）において、ペルーのパートナーであるコルパ・デ・ロロス協同組合が、生物多様性をモニタリングすることを目的とした活動に参加し、13種のオウムとコンゴウインコを含む220種以上の鳥類が記録されました。（進行中）



KAOKAにはバイオパルトネール（バイオエキタブルから名称変更）マークが付与されています。バイオエキタブルとは2002年にKAOKAをはじめとする有機農業に携わる企業によって設立された機関で、現在では、エコサートによりオーガニック及びフェアトレード両方の認証を受けています。生産者との複数年に渡る契約、公正な取引、生産者と連帯感を持ったコミュニケーションが築かれているなどの条件を満たしている商品のみ、同マークの付与が認められます。

KAOKA創業者が立ち上げたバイオパルトネールの輪は広がり、フランスを中心に、製造業者、オーガニック専門店、貿易会社などの幅広い業種から60以上の企業が登録しています。生産者まで広げると、26000人以上（内KAOKAカカオ生産者数:4824人）と多くの人々がバイオパルトネールに関わっています。

KAOKAはバイオパルトネールの輪を通して、グローバルに、オーガニック・フェアトレードの意味を唱え、拡げています。

